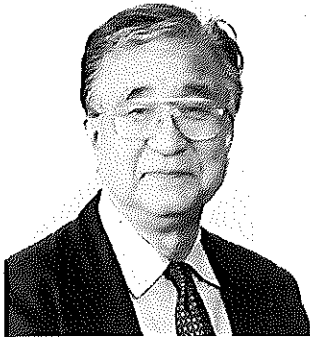


在宅歯科医療連携室整備事業講演会
～入れ歯の達人、加藤武彦が熱く語る！～



加藤歯科医院
医院長 加藤 武彦

通院困難になった患者さんを訪問して診察する事を私は早い時期から行ってきました。肝に銘じていたのは、「食べるところまで診る」ことです。食事をみないで歯科診療だけやって帰ってきたのでは何度訪問しても先が見えてこないと考えていたからです。今では在宅往診もずいぶん行われるようになってきたことは大変喜ばしいのですが、義歯のセット後に食べられるところまで診るということがどこまで行われてるのでしょうか？患者さんは食べられることを望んでおり、在宅・介護にかかわる多職種からもそれを期待されているはずで

す。歯科医は口腔期に主眼を置いたアプローチをすべきであり、食事をみることにより診断し、機能低下に対しては口腔ケア、口腔リハビリを行ったうえで、必要があれば歯科（義歯）治療を行う、食物の採り込み、咀嚼、食塊形成がスムーズに行われるようにし、その後の嚥下につなげるのが歯科の重要な役割であると思います。

最後に、超高齢化社会を迎えるにあたり、入院期間が短くなった昨今、地域包括ケアが必要な時代になってきました。医療・介護との連携において歯科が何をすべきか、そして介護予防としてでてきた「オーラルフレイル」についても触れたいと思います。

歯科が多職種に向けて発信できることは何か！を皆様一人一人が考えるきっかけになればと思います。私の長きにわたる経験をお伝えすることが皆さんのモチベーションに灯をつける結果になれば大変うれしく思います。

講師のプロフィール

- 神奈川県横浜市開業
- 1961年東京歯科大学卒業、64年神奈川県横浜市にて開業
- 現在、地域医療勉強会主宰、加藤塾（全国訪問歯科研究会）主宰、在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク歯科部会世話人代表
- 著書：口腔ケアの最前線（編著）、治療用義歯を応用した総義歯の臨床、口から食べることへの支援－要介護高齢者の口腔ケア－（共著）、食べる機能を回復する口腔ケア（編著）